様式3

令和７年度　香南市保育所評価報告書

香南市立佐古保育所

経営理念	【保育目標】 みつけたよ　自分らしさとおもしろさ　しぜんとともだち　佐古キッズ 【経営目標】『主体者としての心を育み、自己肯定感や人への信頼感を身につけていく保育の在り方をめざす』 〈子ども像〉 健康でたくましい子ども。やさしく思いやりのある子ども。自分で考え話しが聞ける子ども。なかよく協力する子ども。 〈保育所像〉 子どもの最善の利益を考慮し、健全な心身の育成のための「子どもにふさわしい生活の場」として、環境を通して養護と教育を一体的に行う保育所 保護者の子育てを支援する保育所 〈保育士像〉 子どもを見る目を豊かにしよう　子どもの最善の利益に立とう　仲間と創造し協働しよう　保護者と共に育とう育てよう

中期経営目標（重点目標）		評価項目	自己評価 達成状況	評価	保育所関係者評価 考察	評価	改善策等
保育・教育活動の充実	子どもの内面や思いを読み取り、主体性を育むための環境構成や保育者の援助を実践する	① 一人一人が安心して自己発揮できるための幼児理解を深める	一人一人の子どもの姿を肯定的に捉え、安心感を持って過ごせるように保育できた。自分の思いを様々な表現方法で伝えられるようになってきたとともに友達と一緒に様々な事に意欲的に取り組もうとする姿が見られるようになってきた。また、クラス担任間で子どもの姿を共有することを意識しながら取り組めた。	B	・日頃の保育からも、目に見えて子どもたちが様々な事に取り組もうとする姿が見られている。子ども一人一人に寄り添ってくれ、励ましてくれる保育者の存在が大きい。 ・広い園庭で、存分に身体を動かして遊べる環境がある。年齢に応じた遊びの工夫が見られている。また、異年齢児との関わりも多く見られ、子どもたちの育ちにも繋がっている。 ・それぞれの年齢に応じた、室内外の環境や、四季折々の自然物を取り入れたり、季節に応じた遊び環境を整えてくれている。参観日等でも、様々な工夫を凝らし子どもたちが興味・関心をもって関わっている。	A	多面的に子どもを捉え、内面理解に努めながら一人一人の子どもが安心して自己発揮できるように取り組んでいく。
		② しなやかな身体づくりのための取り組みを行う	それぞれの年齢で、発達に応じた様々な動きの経験ができる身体を使った遊びの環境を室内外で整え保育が充実した。毎月のカリキュラム会で、提案したい遊びや環境について話し合う機会をもち、一年間を通じて計画的に進める事もできた。また、保育者も一緒に遊び、子どもと楽しさを共有したり、異年齢児の姿が刺激となり自らやってみようとする子どもの姿が増えてきている。	A		A	年間を通じてそれぞれの年齢や発達に応じた、指導計画に基づいた、意欲的に身体を動かして遊べる環境作りに取り組んでいく。また、職員も身体を動かす遊びのバリエーションを増やし子どもたちにも広げていく。
		③ 乳幼児期の発達に適した環境構成や遊具の活用を工夫する	それぞれの年齢に応じた興味や関心を子どもたちの姿から探り、保育者が『こんなことを経験してもらいたい』という願いと重ねながら、遊具や用具、素材について季節に応じて、園内外を散策し、自然物に触れたり、集めたりして遊びに取り入れる事ができた。子どもの扱いやすい物や大きさ自然物、それらを配置する場所、安全面に配慮し、環境を整える事により子どもたちが自ら選び、子ども同士のやりとりも増えて繰り返し試したり、工夫して遊ぶ姿につながった。	B		B	季節に応じた自然物を用いた遊びや、遊具や用具、素材について子どもたちに経験させたいことを踏まえ教材研究を進め、職員間で様々な遊びのバリエーションを増やせるように取り組んでいく。
職員の育成・資質向上や運営	危機管理や安全管理について意識を高め実践につなげる	① 安全な環境を整える力	乳児組は、誤飲や転倒を防ぐため室内外の環境を整備し、職員同士で声を掛け合いながら安全な環境の中で保育ができた。避難経路の確保や動線についても見直した。幼児組が園庭で遊ぶ際には、職員間で立ち位置を確認し、雲梯や鉄棒など見守りが必要な場所を離れる際には声を掛け合い安全面を意識した。また、ヒヤリハットが起こった際には、その都度対応や環境の見直しを行い再発防止に努めた。	A	・子どもたちが安心して遊べるように仕切りの高さや玩具等の配置も構成されており、安全な環境、保育者の見守りが日々実践されていると感じる。 ・衛生管理のマニュアルの確認や感染症対策など職員で共有し、保育の中で活かされている。例えば4月に嘔吐物の処理方法等を職員にレクチャーすることで日頃からの感染予防、対策に繋がっている。 ・避難訓練では、様々な時間・場所を想定して日々実施してくれている。家庭でも、子どもたちが地震や災害は怖い事という認識があり、年齢に応じた安全教育もしっかりとできている。	A	引き続き、子どもたちが安心・安全に遊べる環境構成や保育者の意識を高めていけるような取り組みを実践していく。
		② 衛生管理・感染症対策に対する知識の向上	一人一人の体調は、受け入れ時の視診や保護者から聞いた家庭での様子は常に職員間で共有し、変化があった時には、看護師、所長、副所長に報告し、家庭に連絡することができた。感染症対策は、室内の換気や温度等に配慮し、子どもたちにも生活の中で手洗いうがいを促すなど、基本的なことを実践することができた。	A		A	子どもたちが健康で過ごせるように、衛生管理について保健計画マニュアルを活用し実践に活かしていく事も意識していきたい。
		③ 避難訓練等での自己の役割を知り実践に活かす	避難訓練では、毎月様々な時間帯や想定をして実施できた。訓練後にはクラス間や学年間で振り返り、反省から自分の役割を見直し次につなげていくことで災害時に臨機応変の対応力が身についてきている。訓練時に限らず日々意識を持って過ごすことや、成果と課題を職員間で共有し対応できるように今後も訓練を積み重ねていく必要がある。	B		B	様々な想定の避難訓練を計画、実施し、成果と課題を明確にしながら、一人一人の職員が防災への意識を高め保育実践に活かしていく。
地域に開かれた園づくり	保育や親育ち支援を基に子どもの育ちを保護者に伝え、子育てを保護者と共有、共感する	① 保育所の取り組みや子どもの育ちを保護者に伝えるための実践を行う	保護者はミニ便りや連絡帳を通じて日頃の保育に関心がもて、子どもたちが家庭で保育所での出来事を話す際にも会話が広がるという反応をもらった。連絡帳や口頭で子どもたちの成長を共に喜び合うことができた。また保護者アンケートからも84%の保護者が子どもたちの遊びの様子や成長の姿を分かりやすく伝えてくれると回答があった。	A	・日々の連絡帳やミニ便りを通じて、その日にどのように過ごしたのかが伝わってくる。また、手紙を通して保護者と子どもとの会話が広がり、コミュニケーションもとれている。 ・それぞれの担任の温かみのある便りを楽しみにしている。子どもの成長を保護者と共に喜んでくれている存在は大切である。今後も、保護者の思いに寄り添いながら、保護者支援の充実に繋がる取り組みをしていただきたい。	A	引き続き、保護者に分かりやすく子どもの成長を伝えるために写真を用いたり、ダイレクトに発信できるように工夫をしていく。また、子どもが経験していることや、保育者の願いや思いが伝わる内容の工夫をしていく。
		② 保護者支援の充実	保護者の不安や疑問を共感的に受け止め、必要に応じて個別に話をする機会を設け、子どもの育ちや子育ての悩みを共有することができた。登降所時以外でも、時間を作り、普段関わる事の少ない保護者とも積極的にコミュニケーションを取ることを心掛けた。悩みに答えられる保育者としての専門的なスキルを磨き、今後とも引き続き取り組んでいきたい。	B		A	保護者とコミュニケーションを取りながら、気軽に話ができる雰囲気作りを心掛け、一人一人の保護者の思いに寄り添える保育者になれるよう研修や園内での話し合いに努めていく。